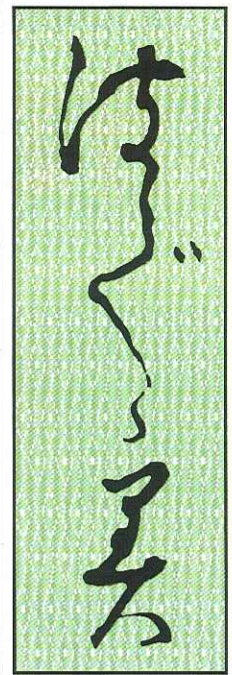


大分県PTA



発行所 大分市下郡字長谷496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 (097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 富永大輔 印刷所 大分市高江四丁目432番25 いづみ印刷株式会社



親子の絆 地域とのつながりを活動の要に

富永県P連会長インタビュー 被災地視察を通して見えてきたこと

教育長に要望書提出

中学校3年生学力診断テストの 継続実施等

富永大輔県P連会長と若林啓子県P副会長は、1月30日、野中信孝県教育長に対し、平成25年度における「中学校3年生学力診断テスト」継続実施や、児童生徒の学力向上及び教職員の資質向上など6項目についての要望書を提出した。



要望書提出

「中学校3年生学力診断テスト」は、進路決定の資料になり得るだけでなく、学力の状況を把握し授業を改善して、学力を向上させる取り組みのために役立つ。その後の意見交換で、富永会長、若林副会長と野中教育長は、子どもたちのための教育の充実を図るよう、それぞれの立場から取り組むことなどを話した。



絆について語る 富永会長

「昨年東日本大震災の被災地へ視察へ行かれましたが、どのようなことを感じられましたか。」
会長 九Pでは4月に仙台へ、7月には日Pで福島へ視察に行かせていただきました。被災状況をみると、仙台では未だに残る津波の爪痕に被害の大きさを思い知らされ言葉の大きさを失いました。沿岸部の地域は、元々津波に対する意識が強いと言われますが、その想像を超える規模の津波に、なす術がなかったことがわかりました。先だって行われた「おおいだ教育の日」で、講師の内田幸雄仙台市P協議会会長もおっしゃっていたようにテレビを見ていた他の地域の

県P連会長として現在4年目の富永会長。これまで募金活動などによる教育環境への支援・充実など、子どもたちの健全育成のために積極的かつ機動的な取り組みを行ってきた。今回は、東日本大震災の被災地視察を通して感じたことなどを熱く語った。

「被災地視察を通して「絆」という言葉にも多く触れてこられたと思いますが、子ども同士、あるいは親と子の絆について感じていることはありますか。」
会長 いじめや体罰など、最近子どもたちの周りには心配な問題も多いのが実情です。体罰については、大人の都合で

人たちは津波の状況を把握できたのだが、当事者たちは何が起きているのかさえずらなかつたという事実を目の当たりにしました。また、日Pの震災対応委員会として福島へ伺うと、原発という津波とは別の被害に人々が苦勞されていること、そのことにより相当のストレスを抱え続けていることを知りました。中でも子どもたちは、一見順応しているように見えても心の中では我慢を強いられているようです。仙台でも福島でも同じように言われたことは「忘れないでほしい」ということでした。県P連として、これからも支援を続けていきたいと思います。

保護者心得六箇条の活用を

合で行っていないか、本当に子どものためなのかを考えた方がいいと思います。スポーツでミスしても悪いことをしているわけではない、まして叩いて矯正するものではないと思います。しかし親としては、そのような問題に我が子が直面した場合、子どもとこれまでどう向き合ってきたか、子どもの出すサインを見逃がしていなかったか、悩み自らを責めることでしょうか。そしてその背景には、親も子どもも誰かと相談し合えない状況があるのかもしれない。被災地を視察して感じたことですが、PTAや地域の組織力がしっかりとっている学校は、混乱の中にあっても大きな役割を担うことができている。PTAの活動の基本として地域との結びつきの強化を考えています。そのような環境をうまく生かし、家庭と学校でそれぞれができることを積極的に取り組む、地域と共に全体で子どもを守り育てていくことが問題解決の一助になるのではと思っています。自分を表現する、相手を受け入れる、このような子どもに育てるために、日頃から子ども

の様子をよく見て、親子で親同士で、また地域とコミュニケーションをとってほしいです。県Pで策定した保護者心得六箇条に次の2つがあります。「1、あいさつの手本は、大人が示そう。2、一人ひとりを尊重できるように、自分の人権意識を高めよう。」まず親が見本となつて子どもたちを導いていっていただきたいと思っています。

「親の意識も問われますね。会長 親が手本を示す存在でありながら、まず第一に子どものことを考えたい。大人の都合や目的で子どもに理想を求めすぎないか、子ども皆で育てるという意識が必要になるでしょうね。」
「これからの抱負は、会長 子どもたちは、義務教育を終えたら社会に出ていくということを認識して、必要な社会性を身につけさせるために、家庭・学校・地域と連携をはかった活動をしていきたいと思っています。」
「保護者の方へのメッセージをお願いします。」
会長 保護者心得六箇条の6箇条めは「6、PTA活動を通して、子育てを楽しもう。」です。親の姿で思いを伝えることもできます。楽しくPTA活動をしながらか子育てを楽しんでほしいと思います。

第36回 大分県PTA 広報紙コンクール

1年の成果をお待ちしています

締切 平成25年3月21日(木)
審査日 平成25年4月3日(水)
表彰式 平成25年4月18日(木)

※応募対象※
県下の小・中・特別支援学校PTAで年3回以上定期発行した広報紙(号外を除く)。〈平成24年4月から平成25年3月発行分〉
審査部門は小学校と中学校の2部門とする。

「第36回大分県PTA広報紙コンクール出品についてのお願い」は各都市PTA連合会事務局を通し単位PTAに送付しています。

研心北

▼教職38年間一貫して書写教育、書写学習指導に力を注いできた。傍ら書道も人後に落ちないよう勉強してきた。お陰で退職と同時に「楽しく書く、書いて楽しむ、楽しく生きる」と標榜して「泰清書道館」と名乗り、只今15年めを楽しく生きている。書道界では、このような場合、○○会、△△社が多いのだが、敢えて書道を入れた▼書道とは書道、道を書くことなりは私の信念でもある。勿論あの柔道(柔術ではない)の講道館、講道、道を講じるに做つたことは言うまでもない▼その柔道界が揺れている。講道館は嘉納治五郎が創設した柔道道場である。柔らかい道を求める場であり心技体の修練の場であつた筈である。「勝つと思ふな思えば負けよ」「柔能制剛」の心を忘れ、技と体のみが強く求められてきたのではないか▼中学校体育で武道が必修となる。教育現場ではその指導準備に追われているようだが、その技を重んじるより心と体を重んじた学習指導をしていただきたい▼日本の伝統文化には道の付くものが多い。柔道剣道・空手道合気道、華道茶道、書道等。道とは何か。単なる人の往還道、方法技術、訓導、報道の意味がある。これらは皆、人のための道であり、文化の道である。○賞や金賞、金メダルだけを追いかけると心がなくなり、書道や柔道ではなく、私ほど何でも道を書く書道や人でありたいと思つている。道の抜けた書家ではないと自戒している▼「してみせて、言つて聞かせて、させてみる」(上杉鷹山)。「古の道を開きても唱えても、わが行いにせよ甲斐なし」(島津日新斎忠良公の歌)

平成23・24年度 大分県PTA連合会指定研究発表会

由布市立 湯布院中学校PTA 12月2日

ともに学び、育ち合う

由布市立湯布院中学校PTA（生徒数249名、会員数243名）は「子どもとともに学び、成長するPTA活動」を研究主題に公開発表を行った。

3年間を通しての キャリア教育

歴代PTAのスローガン「親・教師・子どもの三重奏のもと、午前中の公開活動は各クラスで行われた。一年生は「探そう社会への第一歩」将来の自分を見つけ



ゲストティーチャーの話を聞く生徒

「地域をまきこんだPTA活動を考えよう！」を研究主題に「みかんの花香る津久見から「育もう！希望溢れる子どもたちを」地域と共に子どもたちの健全育成を目指して」の大会入口ーガンのもと、津久見市民会館及び戸高育英会館で行われた。津久見榎の実少年少女合唱団の優しくあたたかな歌声で始まり、会場は感動で包まれた。

「自分が看護士を目指したい」と話した。講師から「自分が看護士を目指したい」と話した。講師から「自分が看護士を目指したい」と話した。講師から「自分が看護士を目指したい」と話した。

「子どもたちの成長を願い親も努力する」と話した。講師から「子どもたちの成長を願い親も努力する」と話した。講師から「子どもたちの成長を願い親も努力する」と話した。



「貴見城の舞」を披露

午後からの研究発表では、テーマに基づいた2年間の取り組みを報告。「学年部を中心に保護者・学校・地域が一体となり子どもたちのキャリア教育に取り組んだ。子どもと一緒に考えることで、自分たちの地域社会における役割や意義も見えてきた。今後とも学び育ち合う湯布院中PTAを目指し取り組んでいきたい」と話した。

第1分科会 家庭教育 人間らしく生きる 子どもに見せたい親の姿

「親から子へ家庭が果たす役割とは」をテーマに約100名が参加し討議。

活動やベルマーク集め、チャリティバザーなどの地道な活動に関心が集まった。また、竹田と日田の参加者が豪雨災害資金への感謝の意を表した。佐藤京子津久見市立青江小学校長は「支援活動は参加した人を中心に広げていくことが大切。また、被害を最小限にとどめる防災教育は地域の人間関係づくりにもつながる」と指導助言した。

親の笑顔が 子どもの笑顔に

次に、衛藤信彰豊後大野市立清川中学校PTA会長が「親子の絆を深めるPTA活動」と題し発表。「親子での活動を多く取り込み、草刈りや炭焼

第2分科会 健全育成・地域活動 保護者・学校・地域で 思いを共有

「ともに育もう！子どもは地域の宝 社会の宝」をテーマに約270名が参加し討議。

平川修日田市立朝日小学校PTA会長は「育友会パワーで地域も子どもも元気になるたプー！子どもも元気になるため、保護者と学校、地域の連携した取り組みのあり方」と題し発表。「昭和51年より開催されている『相撲大会』は朝日小育友会の伝統行事として定着し、地域の活性化に貢献。また、日田レクリエーション協会の協力を得て『あそびの日』を開催し、スポーツチャンバラ、ペタングなどで遊びながら親子でふれあひ、保護者同士の交流も図られている。地域の方の多大

地域との関わりが 子どもの成長へ

次に、山本美咲別府市立朝日中学校PTA会長は「地域の宝を育む、地域の教育力を巻き込んだPTA活動の工夫はい

津久見大会 育む活動を

開会式で富永大輔県PTA連合会長が、昨年の九州北部豪雨の募金活動に謝辞を述べ、多額の義援金は、中津、竹田、日田の教育活動に活用していきたい」と話した。また「大分県PTA研究大会は、昨年ま

全体会

で大分県教育委員会と共催していたが、今回の津久見大会より大分県PTA連合会が主催する研究大会となった。家庭や地域社会における教育力が低下し、子どもを取り巻く環境の厳しさも増していると言われている。保護者・学校・地域が心をつなぎ、連携と協働を図るPTA活動の推進力

を培う大会になることを確信している」とあいさつ。続いて川野修平実行委員長があいさつし、来賓の祝辞へ移った。

広瀬勝貞県知事は「昨年全国学力調査の結果が上がった。子どもたちが将来希望をかなえられ、目標に向かって進められるよう県も応援して



祝辞を述べる 広瀬勝貞大分県知事

いく」と述べた。次期開催地の日田市に大会旗が引き継がれた後、MOTTO（もっと）ひょうご事務局長の栗木剛氏が「地域と共に子どもたちの健全育成を目指して」と題し記念講演を行った。

植村健治県教育庁社会教育課指導主事兼主幹は「PTA活動を継続していくには行事の内容だけでなく、子どもたちへの思いを伝えていくことが大事」と指導助言した。

第21回 大分県PTA研究大会 大分地区

子の思い、親の思い つなげて

記念講演 (講演要旨)

地域と共に子どもたちの健全育成を目指して

栗木 剛 (motto(もっと)ひようご事務局長)

プロフィール

1959年生まれ 神戸大学 教育学部(現 発達科学部) 特殊教育科卒業
生涯学習サポート兵庫 啓発事業部長
コープともしびボランティア振興財団運営委員
座右の銘 『曲がり道は曲がってしまえ』



地域の人への子どもの情報
 地域の人たちは、子育てをしてきたけれど今の子どもは、現物をあまり見なくなり、入ってくる子ども情報といえばテレビや新聞からの良くない情報だけ。情報が交換されていなければ、仲よくはなれない。地域への情報提供は大事。地域との連携というのは、いかに子どもがみられるか、地域の人に伝えられているか。

特に「高学年のお母さんへ」
 悩みのひとつに思春期があると思う。精神的にも身体的にも荒海状態の思春期の海へ我が子は乗り出す。その時、なぜ母親と一緒に荒海へと舟出するのか。ロープだけつないで岸壁に立ち、がんばれ!! いけ!! という気持ちで、ロープを離さず待てばいい。

人の子を見て
 自分の子をしつかりさせていくために他の人の子どもの良

「あー」と長いため息は考えて
 「あーあ」と小さなため息は気持ち切り替えるのいいが長いため息は精神を摩耗させる。子どもも地域の人も見えます。その、ため息を。

子どもが無事に育つために
 地域とのつながりがなくなると、孫でもない子どものめんどうは見えない、自分の子どもが困っているも助けてくれない。だからこそ情報提供という積み立ては大事。

いろいろな子育て話を地域で
 雑談の中で積み立てた情報で子どもが救われることもある。地域の現状に合った子育て話をしあうことが、子どもの心を育み、健全育成につながるのではないだろうか。

「自他を大切にすることを育むために」をテーマに約100名が参加し討議。小串浩二豊後高田市立香々

第3分科会 人権教育 地域と積極的に関わる取り組みを



「かごめかごめ」の歌にあわせて

中学校P研修部長は「子どもを育て、地域に発信するPTA活動」と題し発表した。「過疎化が進む地域の中

で、学校の果たす役割を考えた時、高齢者との関わりを中心に据えた人権学習が必要と考えた。具体的な活動として、親子人権講演会の中で車いす体験などを行った。また体育祭や文化祭にお年寄りを招き交流を深めた。これらの体験から、積極的にお年寄りに関わろうとする姿が見られるようになった」と報告。

討議では、P行事を企画する際の日程の組み方などに関心が集まった。

高橋修一津久見市立第二中学校校長は「今までであった活動に人権学習の目的を組み込むことで息吹が生まれ新しい視点で活動がすすむ。また3世代を意識することで活動や思いは根付いていく。素晴らしいことだ」と指導助言した。

次に、井上克也津久見市立聖徳小学校P会長は「子ども

の安全・安心・人権意識を守り育てていくPTA活動」内容を討議して興味が集まった。

やじ俱樂部・救急法講習・PTA講演会等の取り組みを通して」と題し発表。「聖徳小おやじ俱樂部は、保護者と地域住民によって組織し、子どもの安全と安心に尽力しながらその健全な成長を見守ることを目的としている。活動として通学路の除草作業、遠足で利用する茅土山登山道の整備などを行った。またPTA講演会では、様々な職種の方の話を聞くことで、親子で思いを共有しながら心の絆が深まった。

親子で、地域で取り組む人権教育

更に今年度は人権集会に親子で取り組んだ。子どもたちの群読に加え保護者は、さまざまな「いのちの理由」を群読した。命の大切さを感じられる取り組みだった」と報告。

討議では親子人権集会の内容について興味が集まった。

川野和人県教育庁人権・同和教育課社会教育主事は「親子で、あるいは地域を巻き込んで活動している。特に親子

第4分科会 健康安全 安心・安全な環境作りは情報交換から

「子どもの心身の健康を守り、安全安心を確保するため」をテーマに約130名が参加し討議。

小谷大作日出町立豊岡小学校P会長と菅公彰P副会長は「すこやかな心と体を育む豊岡っ子の育成」家庭・学校・地域の取り組みを通して」と題し発表。「10(22時まで)に寝る」17(7時までに起床)1(朝食は茶碗一杯(パン1枚))2(TV・ゲーム1日2時間以内)・あいさつ運動に取り組んでいる。子どもが意識して取り組めるようにカードを作成した。親子で項目をチェックし毎日学校に提出。集計結果を学校便りで紹介している。親子で生活習慣の意識が高まり、どの項目も向上がみられた」と報告。

討議では、カードの取り組みについて「とても参考になった」など多くの感想が出た。また、地域の見守り隊についても熱心な意見交換が行われた。

石井知由美県教育庁体育保健指導主事は「家族の会話が増えるなど一枚のカードが

人権集会は、親子で発表でき、一つのテーマで考える機会となるよい取り組み。ぜひ継続を」と指導助言した。

ら、さまざまな効果をもたらす取り組み。学校ではなくPTAが行っている事が素晴らしい」と指導助言した。

中島新重津久見市立立戸島中学校校長は「PTAが問題・課題からひとつの活動を生み、拡げている。これからはPTAと学校が思いを共有し、活動に生かしてほしい」と指導助言した。

ハードとハード整備で守ろう子どもの安心・安全」と題し発表。「生徒の下校時間に合わせ、ボランティア下校指導に取り組んでいる。P会員全員に希望を取り、3ヶ所で開催45日行っている。執行部と評議員が手作りの腕章も全家庭に配布。また、地区委員主体の朝のあいさつ運動・交通指導も行い、気付いたことを学校に報告している。下校指導などにより不審者情報も無く、通学時の自転車事故も減少するなど成果を上げていく。下校指導などを通して会員同士の融和は図られてきた。今後は各団体や地域の方との更なる連携に取り組んでいきたい」と報告した。

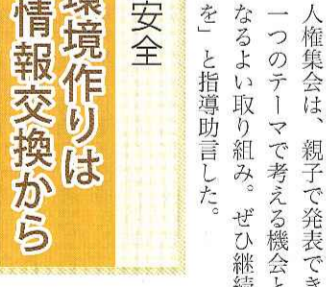
討議では、地域との連携について意見が交わされた。

活動の源は子どもへの思い

次に、佐藤圭次由布市立庄内中学校P会長は「PTAの

興味を持たせる大切さ

限られた人生の時間の中で、嫌いな授業を受ける時間を考える子どもたちにとって何よりも大切なのは、わが子の人生を大きく変えるような人生が待っています。PTA会長 河合 豊彦



質疑に答える発表者



熱心な討議がなされた分科会



娘が小学五年生の時、NHK大河ドラマ「篤姫」を見ていた私に色んな質問をしてきました。

人気俳優のドラマしか見ない娘がどうしたんだろうと思いましたが、丁寧に一つ一つ答えました。

すると次週から食い入るようになり、歴史物のテレビ番組をよく見るようになりました。

食卓では、歴史上の人物のウンチクを誰となく語るようになり、中学に入学すると社会科学、特に日本史が

好きになったようです。私は中学時代、数学が苦手。授業の時間中苦痛になり、その間の時計の針がなかなか進まなかったことを今でも覚えています。

一旦子どもが興味を持った時、面倒くさからずその目をみて対応することが大切なんだと数年たってわかりました。

限られた人生の時間の中で、嫌いな授業を受ける時間を考える子どもたちにとって何よりも大切なのは、わが子の人生を大きく変えるような人生が待っています。PTA会長 河合 豊彦

教育問題懇談会

平成24年度

—パートナーとして 子どもをまん中においた議論を—

今回の学習指導要領では、学習内容と授業時数はかなり増えた。基礎的・基本的知識と技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することが重要であり、言語活動や体験活動の一層の充実が求められている。このようなことから授業時間数が増えた。これらのことを徹底し、鍛えていく。

児童生徒の学力及び教職員の資質の向上

今年度は、各郡市P連(育友会)からの要望をもとに討議の柱を3つにまとめた。これらの柱を中心に意見交換を行った。



意見交換に臨む県教委の方々

いじめについて

いじめについての認識で大切なのは、絶対に許されない行為であるということ。どの学校でも起こる可能性があるという認識をもつことである。また、いじめを解決するには、地域や保護者の協力のもと組織的に取り組まねばならない。いじめが発生したときには、即、介入して解決に導かねばならない。親、先生



意見を述べる富永会長

県教育委員会としては、大分県全体の教育水準を担保することから広域人事を行っている。先生方には採用後いろいろなところで経験を積み、将来の大分県の教育を担う人材に育ってほしいと願っている。管理職は、男女に関係なく、地域の教育に貢献する意欲と努力をする方に管理職になってもらっている。

教職員の配置について

子どもたちは小学校の時からいろいろなトラブルを乗り越えながら正しいモラルを身につけ、中学、高校では大人の判断が出来る資質をもつよう指導していきたい。

ありがとうございました

九州北部豪雨災害募金 お礼

県内PTAの皆様のご支援で、多くの義援金をいただく有難うございました。昨年7月の豪雨災害により、中津市内の三校が被災しました。二度にわたる被災であったため精神的苦痛は大きかつたようです。皆様からの浄財は、子ども達の心のケアを含め大切に使用させていただきます。有難うございました。

中津市PTA連合会副会長 梅高 賢正
このたびの水害に際しては、お見舞いを頂き厚くお礼申し上げます。その上多大なるご援助まで頂き竹田市P連、感謝の言葉もございません。今回の水害で受けた被害は相当に大きなものでありますが、現在では各学級平常通りです。本当にありがとうございました。

竹田市PTA連合会副会長 安東 謙彰
このたび被害を受けた日田市の学校や地域も少しづつではありますが、平時の状態に戻りつつあります。大分県PTA連合会の会員の皆様の心からのご支援感謝致します。有難うございました。

日田市連合育友会長 和田 浩二

反抗期 どう接したらいいの?

みんながながえるコーナー

自前の「オチ」をつける時

「子どものころは、失敗の猶予期間。うんと悩んで、あちこち行ったり来たりした方が将来的に生きていく選択肢を多く持つ人になれるのではないかと」と、語る人がいます。俳優で、舞台や映画、テレビで活躍中の片桐はいりさん自身も役づくりに悩み、迷い、その中から自分らしい表現を生み出し、納得できた経験から出た言葉でしょうか。この時期の子どもたちにはふさわしいアドバイスという言葉がほしい。迷い、悩みをプラスのイメージで受けとめ、心の元気につながるでしょう。迷いや悩みは、心のスローダウンに結びつきます。立ち止まって、自分を見直し、新たな方向に進んでいき「自前の自分」の発見となることが期待されます。

片桐さんの迷いや悩みは、作品に仕込まれた結論に結びついていきますが、この時期の迷いや悩みは、自分らしい生き方の結び目となるのではないのでしょうか。

オリジナルな生き方に自分の「オチ」をつける悩み、迷いならば、それは、かけがえないもの。さて、「オチ」にどうかかわればよいのでしょうか。みんなで考えるコーナー室長 岩尾 淳一

一年を振り返って



母親部長 若林 啓子

母親部は大分県の16郡市PTAから選出された母親代表で構成され、各郡市の活動報告、情報交換や意見交換を行っています。また、教育委員会や青少年健全育成関係の団体が主催する子育てに関する様々な会議に出席し、母親の立場から意見を述べさせていたいただいております。

今年度の活動の柱は、「教育行政に関心を深めると共に、県教委へ母親の思いを直接伝え、より良い教育環境を子どもたちに提供できるよう働きかけよう」というものでした。日頃から学校の現状や子どもたちの様子を身近で見ているのが、PTA役員をしている母親ではないかと思いませんか。だからこそ、感じていることや思いをもっと行政に伝え、大分の教育力を高めるために、母親のパワーとネットワーク力を活用してもらえた

編集後記

紙面の都合により「まなざし」一報はお休みします。

▼子どもの背がずいぶん伸びたと気付く。春はすぐそこ。

▼子は親の鏡。親の背中を子どもはしっかりと見ている。

▼小さな二人の愛読者。背にあなたかな視線を感じる幸せ。

▼少しは成長できたかな。応援いただいた全ての方に感謝。

立ちどまらない保険。MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心 GK

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2
www.ms-ins.com

平成25年1月より「はぐく美保険サービス(株)」がスタート致しました!

はぐく美保険サービス(株)
大分市下郡496-38 大分県教育会館2F
(コール ハグクミ)
☎ 0120-568993

はぐく美保険サービスはPTA活動と会員の安心・安全をサポートします!

平成25年度大分県PTA連合会任意保険の募集が始まります

《申込期間》2月1日~4月25日 ※2月1日からスタート

《補償期間》2/1~3/31までお申込分...4/1午後4:00~H26.4/1午後4:00
4/1~4/25までお申込分...4/30午前0:00~H26.4/1午後4:00

同一世帯で複数のお子様が入会する場合や両方の保険に入会する場合は保険料が変わります。保存版パンフレットでコースをご確認の上、この機会にぜひご加入下さい。

《保険の種類と保険料》

- ・育英補償(子ども総合保険)
 - Aコース:4,880円(一人目)
 - Bコース:3,540円(二人目から)
- ・自転車補償(自転車総合保険)
 - Cコース:930円(一人目)
 - Dコース:540円(二人目から)